



第1165回例会挨拶

会長 生田 弘之

みなさんこんにちは、今日は暦の上では処暑という日で、暑さが収まるということだそうです。その言葉の通りひと頃はだいぶ涼しくなってきたように感じられますが、本日は例会にご出席いただきまして有難うございます。

本日はゲストとして先ほどご紹介がありましたように、市内で播州織の製作、開発に取り組んでおられます玉木新離さんをお迎えしております。玉木さんの直営店には力織機と最新式のレピア織機を据付けて活動をされています。後ほどお話をいただきますがよろしくお願いたします。

さてこの度ライオン誌日本語版委員会から「ライオン誌例会のスメ」と題してガイドがありました。クラブ例会でのライオン誌の活用を推奨し、会員の皆さんにライオン誌にもっと親しみを持って読んでもらいたいという趣旨です。

私事ですすが私の周りには活字が氾濫しており、唯でさえ読み不精の私には目を通すことが少なく、ツン読型になっております。しかしながらこの際良い機会だと考え、皆さんも読まれたと思いますが、例の「高校駅伝大会でぜんざいの炊き出し」が載っていました今年の5月号に目を通しました。

前文には東日本大震災の復旧作業の様子が事細かに書かれていました。各地のLCの会員が「ウイサーブ」の掛け声の下に連携して、懸命に復旧作業をされている様子が感動的でした。

その次には「若手フォーラム」と題して全国の若い会員によるディスカッションの記事が載っており印象的でした。再確認になりますがLCは人種、性別、職種、年齢を超えた会員同士の交流と地域の繋がりをともに、その中で自分自身が成長できることが理想であるとされています。また次に各地LCからの便りがあり、岡山県の金光LCからの「ネパールの小学校で理科実験」は、ネパールの子どもたちの喜びようが写真と文から溢れており、たいへん印象的でした。「獅子吼」の欄では会員一人ひとりの体験談が主になっており、関心を持ちました。

このように実際に目を通してみますと、これまでの食わず嫌いのような状態から脱却できたのではないかと考えています。

それでライオン誌日本語版委員会からは一つのライオン誌をテーマにした例会をぜひ実施してもらいたいということでした。例えばPR委員会の担当する例会で、委員長がライオン誌を読んで気になった記事や、会員に読んでもらいたい記事を選んで紹介する。また「私が読んだライオン誌」ということで会員にショートスピーチをしてもらう。あるいはテールツイスタータイムとしてライオン誌の記事をテーマとしたクイズを出題してもらうなど、一度はライオン誌例会なるものをやってみてはどうかと思っています。

例会を楽しく、面白く、魅力的に意義ある例会にと考えるのはLCにとって永遠の課題であると思います。マンネリになりがちな例会に活力を与え、ひいてはクラブの活性化や退会防止に繋がるものといえに期待しています。

以上をもちまして会長挨拶とさせていただきます。有難うございました。



あの高い所に登れるの？



ないしょ。



ないしょ。



ガンバッています。



綿の花

テールツイスターアワー



どこにしようかな。

行ってみたいところ

(線で結んでください。)

昔の彼女・ピラミッド・エベレスト・あこがれの天国・月・ディズニーランド

・生田弘之・藤井義輝・藤本昌宏・河原 淳・岡本和明・大瀬良修・山口善康・金井弘行

第二十四回9月12日(月)～19(月)

国際平和ポスター展

テーマ「子どもたちは平和を知っている」

(西脇市内小学校5年生参加作品展)

主催：西脇・黒田庄ライオンズクラブ 後援：西脇市教育委員会

子どもたちに世界の平和について考える機会を与えようとの趣旨のもと、1988年から始まり第24回を迎えます。世界中の150万人以上の子どもたちから、世界の平和と国際協調の大切さを各々の思いで描き上げた素晴らしい作品のご応募をいただいております。

今年は東日本大震災で、多くの方々が大変かなしい思いをされました、日本中から世界中から多くの励ましや、援助の手が差し伸べられており感謝の気持ちでいっぱいですが、私たちは仲間なのですね。いま日本は自然災害に平和をおびやかされました、でも世界中、地球のどこかで毎日人間同士が自分たちの手で自分たちの仲間を苦しめたり、傷つけあったりしています。作品には子供たちの平和への思いがにじみ出ているようです。



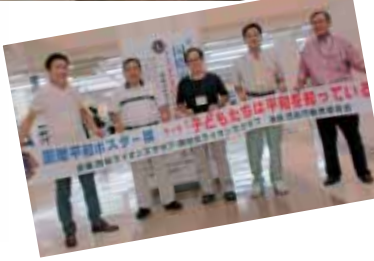
国際平和ポスター展 審査講評



本年度は、例年よりも作品数が少なく感じましたが、出品された作品はどれも子ども達の思いがよく伝わってきました。国際平和ポスターという大人でも難しい題材の作品に、子どもたちなりの柔軟な発想と表現方法でおもしろい作品になっていました。今回の審査で印象に残っているのは、明るい色の作品が多かったということです。形や構図にも工夫を凝らし、変化のある作品も多数あったように思います。一般的な平和のイメージを抱きやすいモチーフにこだわらず、独自の視点で絵を仕上げている作品も増えてきているように感じました。大人の視点ではなく、子どもの視点から見つめた絵は、その年代にしか描けません。子どもなりに工夫し、思いのこもった作品は本当に素晴らしいと思います。技術や上手さだけではなく、しっかりと自分で考え、子どもらしくのびのびと描かれている作品に魅力を感じました。あまりむずかしく考えずに、身近な生活の中にある『平和』を感じることができる題材を絵にすることができれば、もっと魅力的な作品ができるのではないのでしょうか。

子ども達の作品を見て、改めて絵の素晴らしさを感じ、平和を考えるととてもよい機会になりました。ありがとうございました。より多くの方々に見ていただき、子どもたちの思いを感じ取っていただきたいと思います。

西脇市西脇東中学校教諭 長谷川禎一



金ゴマの花

教育委員会・各学校・イズミヤ・カナート西脇店へのお礼

西脇市教育委員会・各小学校におかれましては「国際平和ポスターコンテスト」にご協力いただきありがとうございます。私たちは子どもたちに平和な日々を残したいと考えています、平和は子どもたちが自らの手でつかみ取り築くものだと考えています。ポスター展を開催するに当たり多くの子どもたちに、今一度平和という耳慣れた日々の生活を少し広げて地域に、より広い社会に、いずれは世界にその眼をむけるきっかけになることを望んでいます。当クラブとしまでも大変意義あることと思っています。関係各位に対して、心から感謝申し上げます。